

みち

第14号

2019年3月1日 発行

安城保護区保護司会

発行責任者 石川 誠

安城市役所社会福祉課

総務部会「みち」編集委員会

第68回社会を明るくする運動

“社会を明るくする運動”は、すべての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない明るい社会を築こうとする全国的な運動です。



標語、作文受賞者のみなさん（平成30年9月22日図書情報館アンフォーレ）

標語	最優秀賞 2名 優秀賞 4名 入選 6名
----	--

作文	最優秀賞 2名 優秀賞 4名 入選 6名
----	--

(P2、3に掲載)

重点地区の啓発活動

安城北中学校区 保護司 今原 康徳

7月1日、市内8中学校区で一斉に「社会を明るくする運動」の街頭啓発活動を実施しました。本年度重点啓発地区の安城北中学校区では、イトーヨーカドー安城店にて実施し、店舗出入り口4か所に分かれ、客足の多い11時頃からスタートしました。運動推進委員長である安城市長をはじめ、関係町内会長、更生保護女性会、協力雇用主会、BBS会、市議会議員のご協力をいただき、保護司・市職員を併せて39名が参加しました。来店する人たちに啓発グッズを配布し、犯罪や非行防止など運動の趣旨の理解と協力を呼びかけました。



イトーヨーカドー安城店

ミニ集会～参加型講演会～

東山中学校区 保護司 塚本 和彦

東山中学校区は、7月13日北部公民館の「かきたホール」で開催しました。北部コミュニティ協議会の後援を得て町内会長、校長、市議会議員、民生委員、更生保護女性会、BBS会員、協力雇用主会など60名の地域からの参加者がありました。

「家庭教育」に視点を当てた講演会では、講演の前に参加者全員が班別に共通テーマで意見交換をしました。参加型にしたことでの子育ての課題が事前に明確になり、参加者が問題意識をもって、その後の講演を聞くことができ有意義な集会となりました。



北部公民館

標語・作文の表彰(安城市標語・作文コンテスト)



標語

最優秀賞 宇井 美結 安城中部小学校4年
「思いやり、いつでもどこでも だれにでも」

優秀賞 西鶴 友希 桜井中学校2年
「言ってみよう 勇気を出して やめなよと」

優秀賞 田中 若菜 安城西部小学校4年
「ありがとう いわれた心は、ぽっかぽか」

入選 稲垣 樹沙 安城南部小学校5年

入選 小林 海斗 梨の里小学校4年

入選 源波 由莉 丈山小学校1年

最優秀賞 塚本 晴基 安城西中学校2年
「ありがとう すてきな言葉の 金メダル」

優秀賞 吉村 雪華 安城北中学校2年
「暗い道 照らした光 すくいの手」

優秀賞 分根 菜友 三河安城小学校5年
「その行動、明るい未来は待ってるの?」

入選 坪沼 優奈 安城南中学校2年

入選 西田 千夏 二本木小学校5年

入選 磯村 優樹 桜井小学校4年

作文

最優秀賞 神之薗 祐奈 作野小学校6年
「あいさつと人とのつながり」

優秀賞 栗田 藍渚 篠目中学校3年
「貧困な子供」

優秀賞 斎藤 羽未 高棚小学校6年
「明るい社会にするためには」

入選 佐々木 美緒 志貴小学校6年

入選 山口 紗弥歌 里町小学校6年

入選 永井 優芽 安城北部小学校5年

最優秀賞 宮本 愛里 篠目中学校3年
「社会全体の雰囲気づくり」

優秀賞 高木 玲人 安城西中学校3年
「人とのつながり」

優秀賞 加藤 彩音 高棚小学校6年
「少しでも犯罪を減らすために」

入選 長谷川 結香 錦町小学校6年

入選 星野 永 丈山小学校6年

入選 吉房 駿 三河安城小学校6年

《作文》安城市最優秀賞 愛知県作文コンテスト 中日ドラゴンズ賞(小学生の部) 「あいさつと人とのつながり」 作野小学校6年 神之薗 祐奈



私が、最近テレビを見ていると犯罪のニュースや不審者についてのニュースをやっていることがよくあります。こわいな、心配だなと思っていると、ある日の全校朝会で、校長先生が、「あいさつをすることで、不審者から身を守ることができる。」とお話ししてくださいました。そのお話をもとに、なぜあいさつをすることで身を守ることができるのか考えてみました。私の頭の中に二つの理由が思い浮かびました。一つ目は、あいさつをすることで、言つたほうはすがすがしい気持ちになるし、言われたほうも気持ちがよくなるからです。二つ目は、あいさつをして人ととの関わりをもつことで、犯罪を未然に防ぐことができると思うからです。あいさつは、小さな子からお年寄りまで言うことができます。おはよう、こんにちは、こんばんは、さようならなど、短い一言でも大きく社会を変えていくことができるのではな

いかと思います。私もこれまでにあいさつをしてよかつたと思った経験があります。

ある日、マラソン大会の練習のために、家の周りを走っていたときのことです。同じくらいの年の男の子とすれ違いました。その男の子は、私を見る立ち止まって会釈をして「こんにちは。」と言ってくれました。そのとき私は、知らない人だけれど、あいさつをしてもらうとうれしいなと思いました。そして、私も自然に「こんにちは。」と言うことができました。あいさつをする恥ずかしさよりも、あいさつをしてもらえたうれしさが勝ったからだと思います。そして、その一言を言うことができたことで、とてもすがすがしい気持ちになりました。そのことがもつとうれしくて、次に会った人には、自分からあいさつをしようと思いました。

その後、走っていると、三人の女の人が話をしな

がら散歩をしていました。私は、私のあいさつの声は聞こえるかな、素通りされたらどうしよう、などと心配に思いました。でも、思い切ってあいさつをすることにしました。自分からあいさつをすることが初めてだったため、緊張していつもと同じ声になつたけれど、顔を上げて、笑顔、そしてできるだけ大きな声で、「こんにちは。」と言ってみました。すると、三人の女の人は私に気付いてくれて、笑顔で会釈をしてから「こんにちは。」と、あいさつを返してくれました。あいさつをする前は、きっと気付いてくれずに素通りされるだろうと思っていたけれど、あいさつを返してもらえたことが、素直にうれしかったです。そして、人とつながったように思えて温かい気持ちになれました。今まででは、あいさつなんかしなくても大丈夫、大きな声であいさつをするのは恥ずかしい

と思っていただけれど、この出来事のおかげであいさつの大切さに気付くことができました。

それからは、登下校中のスクールガードの方々や地域の人たちにも明るく大きな声であいさつができるようになりました。また、声に出すあいさつではなく、会釈をすることもあります。知らない人でも、あいさつや会釈をすると相手も同じように返してくれてとても安心します。

私は、このようにあいさつをするなど、全く知らない人とでもつながる方法をみんなが知れば、今の社会はどんどん明るくなっていくと思います。私は、これからも、当たり前だけれど、あいさつを通して、人ととのふれ合いを大切にしていきたいです。みんなが安心して幸せに暮らすことのできる社会にしたいです。

〈作文〉安城市最優秀賞 「社会全体の雰囲気づくり」

篠目中学校3年 宮本 愛里



非行少年。誰もが一回は聞いたことがある言葉ではないか。しかし、私はこの言葉が未成年者の非行、犯罪がなくせない原因だと思う。非行少年、そのまま読むと、非行をした少年。私は、その少年をすぐ非難しているように聞こえる。もちろん、犯罪を起こすことはよくないことだと思う。ただ、その行動はつらいことに気が付いてほしいという心の現れだと思う。SOSの発信の仕方を他に知らないから、そういう行動をとってしまうのではないか。犯罪を起こす前に、周りの人がつらいことに気が付いてあげなければならないと思う。

今まで、非行少年のニュースを見ると、なんでそんなことをするのだろうと思っていた。そんな私が、非行は心のSOSだと思うようになったのには、ひとつのきっかけがある。

それは、弟が友達を殴ってしまったことだ。相手の子はけがをしてしまった。親は何度も学校へ行き、相手のお母さんに謝ったそうだ。原因を聞くと、弟がずっと前からその子に嫌な思いをさせられていたことだった。それを聞いて、私はハッとした。その子とまくいっていないことを弟から聞いたことがあったのだ。その時は、いつものぐちだと思っていた。なんとなく聞き流し、「へえー、いやだね。」と

軽くかえしていた。まさか、それがこんな大ごとにつながるなんて思ってもみなかつた。なんで私は、真剣に聞いてあげられなかつたのだろう。なんで私は、そのとき「大丈夫。また嫌なことがあつたら教えてね。」と言えなかつたのだろう。なんで私は、弟のSOSに気が付けなかつたのだろう。後悔の波が押し寄せた。弟は、私が思っていた以上に苦しかつたのかもしれない。ほかにSOSを発信することができずに、モヤモヤがたまり、暴力という行動に出てしまつたのだろう。暴力はだめだ。しかし、暴力という行動を作り出してしまつたのは私たち家族だと思う。もし、あの時私が真摯に聞いていたら、このことは起きていたになかつただろう。家族の「嫌なことがあつたら、いつでも聞くよ。」という雰囲気も足りなかつた。

私は、社会全体でも同じことがいえると思う。テレビでは、「こんな少年非行がありました。原因はこうでした。」「最近、少年非行が多いです。」で終わつてしまう。これでは、非行を頭ごなしに否定しているだけだ。非行を減らしたい。そう思うなら、社会で悩みを相談できる雰囲気、SOSに気がつこうという意識を作らなければいけないと思う。日本全体、世界全体で非行を減らせるような世の中にしたい。

日々の活動に感謝して



安城保護区の担当は12年ぶり2回目です。十年ひと昔と言うとおり、様変わりした部分もいくつかあります。全国的に刑法犯は減り、安城保護区でも保護観察事件数は約半減しました。しかし、かといって処遇が楽になった印象はありません。以前、安城保護区と言えば暴走族で、いかにも不良という子らが続々とやってきて格闘しましたが、彼らは良い職場や居場所を得ると、瞬く間に負のパワーを正に変え成長していくことがよくありました。一方今般は、一見普通の子だけれどもなぜか心に入り込めず、低空飛行から抜け出す手がかりがつかめず、砂を噛む思いをするケースが目立ちます。全国的に少年非行は減る一方、不登校や

名古屋保護観察所 保護観察官 後藤 佳代

引きこもりが増えている傾向とも関係あるかもしれません。

また、安城市は豊かで住み良く仕事もたくさんあり、職を求めて保護観察対象者が各地から集まっています。基本的にその者らは生活基盤が弱い、生活面の指導等特別な配慮が必要な者も多いです。

さらに、近年では処遇者と対象者が一対一で向き合い進む方向を見つけていくだけではなく、福祉、医療機関、学校等更生保護の枠を越えた連携が必要なケースが目立ちます。安城保護区の保護司活動が地域に根付き受け入れられているおかげで、他機関との良い繋がりを持つことができており、保護司の方々お一人お一人の日々の活動に感謝しております。

更生保護女性会の活動について

更生保護女性会 会長 加藤 美知子

更生保護女性会は、「子育て支援活動、非行防止活動、子育て支援活動」を軸に進めています。少しずつその内容も変化し、高齢者の万引きの増加や子ども食堂など考えていかなければならないことが出てきました。

先日、子ども食堂が話題にのぼり、実際に始めている地区があり、その苦労を聞く機会がありました。その運営には各方面の協力が必要であり、月一回の開催を継続していくことでも、いろんな課題があるとのことでした。警察の話だと、犯罪件数は減っているものの再犯が増えているとのことです。地域の中での見守り活動がとても大事に思えます。私たち、更生保護女性会が「どの様に関わって良いか」、「何かいい方法はないのか」思っているだけでは、時ばかり過ぎてしまうので、より充実させていきたいと思っています。

先日もマスコットを持って、市内保育園、幼稚園へ訪問した会員さんから、子供達がとても喜ん



市内保育園

でくれて良かったね!との声を聞き、20年以上も続いているこの活動を続けることが私達の力となっていました。

社会を明るくする運動などに積極的に参加して、いろんなことに興味を持ち、視野を広げ、今後の活動につなげていきたいと思います。

安城保護区協力雇用主会設立から7年

協力雇用主会 会長 鈴木 浩

安城保護区協力雇用主会は、平成23年9月に市内14社の協力雇用主を会員としてスタートし、今年で7年が過ぎ、現在40社の協力をいただき活動しています。

昨今、保護観察者の減少により、雇用主との面接も減り、本年度初めて面接件数が0件でした。このような現状ではありますが、複数の雇用主からは、「いつでも受け入れ大丈夫ですよ」との声もいただいております。そういった中、今年の県内研修は、12社の協力雇用主に参加をいただき、9月に名古屋刑務所豊橋刑務支所を視察しました。受刑者が生活する部屋の様子や刑務作業を実際に見ることができ、また、刑務所の次長さんの説明は、とても丁寧で参加した皆さんもよく理解できたと思

います。

このような活動を通して雇用主同士、横の繋がりを深め更生保護活動が推進されることを願っています。



豊橋刑務支所

ABK(朝美活)清掃活動に参加して

安城市BBS会 副会長 加藤 逸紀

安城市BBS会は、設立して3年が経過しました。活動の一つは継続的な「ABK(朝美活)」、いわゆる早朝清掃活動に参加することです。

この活動は、毎月第1火曜日6時45分から7時30分までの間、三河安城周辺で行われています。BBS会が地域のみなさんと清掃活動に参加するのは、BBS会のPRを兼ねるとともに、きれいな町には犯罪は起きないとの意味を深く理解し、今後「ともだち活動」を行う際の役に立てれたらと思います。私たちは、安心安全な社会が実現されるように活動を続けています。



三河安城駅

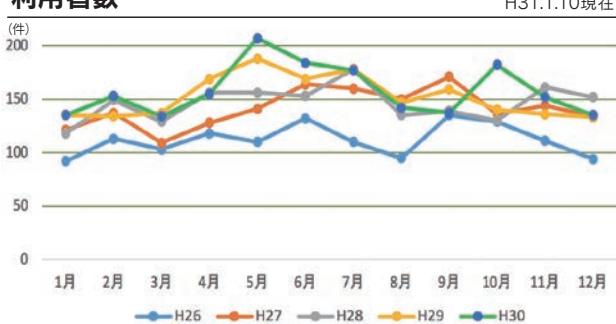
安城更生保護サポートセンターについて

サポートセンター長 後藤 喜久男

安城更生保護サポートセンターは、社会の変化に対応して、地域の関係団体との連携強化をはじめ、保護司活動の拠点として設置されました。5年が経過した今では、保護司会の運営や保護司の情報交換の場として、大きな役割を果たしています。

今後は、保護観察事案等の処遇で困っている保護司からの相談にも対応・助言できるように、また処遇協議や情報交換の場として、より気楽に立ち寄っていただける場にしたいと考えています。

利用者数



主な利用目的

- 保護司会の運営に関する事務及び協議 (131件)
- 保護観察対象者等との面接 (67件)
- サポートセンターの運営に関する事務及び協議 (54件)
- 社会を明るくする運動に関する事務及び協議 (26件)
- 更生保護等関係団体との協議等 (21件)

平成30年度 各部会などの活動状況

総務部会

部会長 富田 博治

総務部会の活動は、保護司会総会、退任・新任保護司歓送迎会等の運営及び広報紙「みち」の発行です。

4月18日に市役所さくら庁舎で開催した保護司会総会は、杉山多恵名古屋保護観察所長、神谷学市長を始め多くの来賓の方の出席をいただき、円滑な運営に気を配りました。業務の効率化を図るため、「みち」の編集を担当する編集小委員会と定例会等の運営を担当する総務小委員会に分けました。本年度は、「西三河地区夏祭り対策会議」について、安城保護区が開催地となつたため、多くの部会員の協力を得ました。



さくら庁舎

研修部会

部会長 杉浦 貴己

今年度の県外研修は、10月9日、兵庫県の加古川市にある播磨社会復帰センターを視察しました。ここは、PFI手法と構造改革特区を活用し平成19年4月に開設された官民協働の刑務所です。特徴的なことは、受刑者の円滑な社会復帰を目指し職業訓練と就労支援などで民間のノウハウが生かされ運営されている点です。これまでの刑務所のイメージを一新するもので福祉関係機関との連携を図るなど再犯防止に役立つ新しい取り組みもされていました。センターの担当者から矯

正施設の現状と課題について学びました。



播磨社会復帰センター

犯罪予防部会

部会長 服部 和光

犯罪予防部会は、今年も社会を明るくする運動に向け事業計画を立て活動してきました。6月27日には、市長を推進委員長とする「第68回社会を明るくする運動」推進委員会を開催し、保護観察所課長を招き、内閣総理大臣メッセージが伝達されました。

本年度の街頭啓発活動は、市内8ヶ所、関係団体、BBS会、協力雇用主会、更生保護女性会、保護司総勢147名で運動の啓発に努めました。七夕まつり巡回パトロールは、安城警察署の少年係、地

域警察官の協力を得て実施し、犯罪予防活動と対象者の行動把握をすることができました。9月22日アンフォーレで社明運動の標語・作文の表彰式を行い、アトラクションとして「梵迦」による和太鼓演奏と「安城北斗」の演舞で表彰式に華をそえました。



イトヨーカドー安城店

育成指導部会

部会長 神谷 善雪

育成指導部会は、更生保護関係団体である協力雇用主会、更生保護女性会、BBS会との協力関係の向上を図るために連携・交流を行いました。

今年度は、協力雇用主会と就労支援意見交換会を8中学校区でそれぞれ2回、12月に更生保護女性会合同研修会を実施しました。また、BBS会との意見交換会や友だち活動の一環としてのカローリングゲームで交流を深めました。



サポートセンター

薬物乱用防止指導員の活動

指導員 代表 安藤 義美

薬物乱用防止指導員の活動の内容は、薬物乱用のない社会環境づくりのため、年間を通して様々な取り組みを行っています。6月は「6.23ヤングキャンペーン」、7月「社会を明るくする運動街頭啓発活動、ミニ集会でのミニ講話」、8月「安城七夕まつりヤングキャンペーン」、11月「麻薬覚醒剤乱用防止運動」を実施しました。これらの活動を通して、薬物乱用の恐ろしさ、薬物乱用は「ダメ。ゼッタイ」を訴えています。指導員としての知識の向上と実のある講話が行えるよう自主勉強会も開催し、「薬物乱用のない

安全で安心なまち」づくりに繋がるように活動しています。



JAまつり

栄誉に輝く方々

全国保護司連盟理事長表彰

中部地方更生保護委員会委員長表彰

中部地方保護司連盟会長表彰

名古屋保護観察所長表彰

愛知県保護司会連合会長表彰

吉見 みほ子

狩野 多喜子 須藤 房美

都築 真一 富田 博治 石川 佳寿子 烏居 章二

稻垣 正義 今原 康徳 服部 和光 木村 忠弘

梅村 正一 塚本 和彦 水野 義孝 神谷 豊治

平成30年 新任保護司 紹介



横山 佐喜郎
(桜井中学校区)



杉浦 清治
(明祥中学校区)



木村 勇二
(篠目中学校区)

平成30年 退任 保護司

黒柳 一明
(桜井中学校区)
加藤 弘
(篠目中学校区)
岩月 久直
(東山中学校区)

この一年を振り返って

安城保護区保護司会 会長 石川 誠

犯罪のない明るい社会をめざし、保護司会は地域のみなさんの協力のもと、共に活動してまいります。

平成30年度の重点目標である更生保護団体との連携を図るために更生保護女性会、協力雇用主会及び若者支援BBS会の3者を軸に、日々邁進し「地域の更生保護」に努めてまいりました。この成果を会報「みち」にまとめました。今後ともご支援をよろしくお願ひいたします。

写真は、この一年を振り返ってみた主な行事の様子です。



社明街頭啓発活動(7月)



BBS会との意見交換会(7月)



七夕まつり(8月)



七夕巡回(8月)



社明 表彰式(9月)



社明 アトラクション(アンフォーレ)(9月)



県外研修(播磨社会復帰センター)(10月)



JAまつり(11月)



愛知県更生保護大会(11月)



更生保護女性会との合同研修会(12月)